

**CP1:I. ペテロの手紙と全聖書の中心思想は、命と建造です。**A命とは、キリストの中に具体化され、その霊として実際化された三一の神が、ご自身を私たちの中へと分与して、私たちの享受となることです。建造とは、召会、キリストのからだ、神の霊の家であり、それは神の拡大また拡張であって、神を団体的に表現します。III. 神の目標は、生ける石で建造された霊の家を持つことです。1ペテロ2:4 人には捨てられたが、神には選ばれた尊い生ける石である主に来て、5 あなたがた自身も生ける石として、霊の家に建造されていきながら、聖なる祭司の体系となって、イエス・キリストを通して、神に受け入れられる霊のいけにえをささげなさい。A私たちの命として、キリストは朽ちない種です。神の建造のために、彼は生ける石です。Bペテロの悔い改めの時、主は彼に、ペテロ、すなわち石という新しい名を与えました。ペテロがキリストに関する啓示を受けたとき、主はさらに、ご自身が岩、すなわち石であることを啓示しました。この二つの出来事によって、ペテロは、キリストと彼の信者たちが神の建造のための生ける石であるという印象を受けました。C私たち、キリストにある信者は、再生と造り変えを通して、キリストの複製としての生ける石となります。私たちは土くれから創造されましたが、再生の時、神聖な命の種を受けました。その種は私たちの中で成長することによって、私たちを造り変えて生ける石とします。私たちは彼を命の種として受け入れた後、成長する必要があります。それは、私たちが彼を私たちの中に生きておられる石として経験するためです。こうして彼は、私たちをも、彼の石の性質で造り変えられた生ける石としてくださいます。それは、土台また隅の石である彼の上に、私たちが他の人々と共に、霊の家に建造されるためです。

**CP2:III. 神の建造は生きているので、成長します。**神の家としての召会を真に建造することは、信者たちの命における成長によります。A神の建造のために命において成長しようとするなら、私たちは主を愛し、私たちの霊に注意し、何のものにもまさって私たちの心を見守って、命の道にとどまらなければなりません。箴4:23 何のものにもまさってあなたの心を見守れ。そこから命の流れが出てくるからである。Bキリストの命が私たちの中で妨げられないことを願うなら、私たちは十字架の砕き、すなわち、栄光の霊としてのキリストのすべてを含む霊の中の、キリストの殺す死を経験しなければなりません。それによって、私たちの中の以下の障害は対処され、取り除かれることができます:1)キリヤンであるとは、キリスト以外の何ものも、私たちの目標としないこと

を意味します。この事に対する障害は、命の道を知らず、キリストを私たちの命としないことです。2)第二の障害は偽善です。人の霊性が決定されるのは、外側の現れによってではなく、いかにキリストに注意を払うかによってです。マタイ6:1 あなたがたは、人に注目されようとして、自分の義を人の前で行なうことがないように注意しなさい。そうでないと、あなたがたは、天におられるあなたがたの父の褒賞を受けることはない。滑らかな石にはとがった縁や突起がありません。ある人々はこのように生まれました。彼らは決して家で兄弟たちや両親を怒らせず、また職場で同僚や目上の人を決して怒らせません。人々がどのように彼らを扱っても、彼らは常に穏やかで落ち着いています。そのような人は救われるとき、召会の中で滑らかなクリスチャンになります。...多くの兄弟姉妹は彼を称賛して言うでしょう、「この人は真に霊的です。彼は決して家で争ったり、外で問題を起こしたりしません。私たちは、彼が多くの事を行なうのを見ますが、彼は決して自分の意見を言いません。彼は真に霊的で命に満ちています」。...私たちは、これが実は偽善であることを認識する必要があります。もし彼の振る舞いが真に霊的であるなら、それは彼が救われる前でさえ霊的であったことを意味します。これはあり得ません。...命は神ご自身であり、命はキリストであり、命は聖霊です。神、キリスト、あるいは聖霊のものでないどんなものも命ではありません。3)第三の障害は反逆です。私たちは事を行なうことにとっても積極的で熱心であっても、私たちの内側の生けるキリストを軽視することによって、なおも彼を監禁し、不従順であるかもしれません。4)第四の障害は、私たちの天然の能力です。もしこれらの天然の能力が私たちの中で砕かれないうままであるなら、キリストの命にとって問題となります。1コリント2:14 しかし魂の人は、神の霊の事柄を受け入れません。なぜなら、彼にとって、それは愚かであるからです。15 しかし霊の人は、すべての事柄を識別しますが、彼自身はだれにも識別されません。多くの兄弟姉妹は真に主を愛し、主のために熱心であり、とても敬虔です。それにもかかわらず、彼らの最大の問題は、彼らの能力と才能の力と大きさです。その結果として、キリストには彼らの中で何の立場も道もありません。...私たちの中のこれらの障害すべてに対する一つの解決があります。私たちは十字架を経過し、十字架に私たちを砕いてもらわなければなりません。証私には天然の命の良い面が、偽善であり、キリストではないので、成長の妨げになっていることを証

します。救われて間もない頃、私は自分なりの律法があり、それを実行しない兄弟姉妹を心の中で責めていました。例えば、食事の時に音を立てながら食べる人を心の中で軽蔑していました。この自分なりのルールを持ったまま、召会生活を実行していたので、私は大変疲れました。その時、私が前面の兄弟姉妹を観察すると、彼らはこのような細かいことを気に留めていませんでした。私は主の御名を呼び、自家製の律法を十字架に付けることを訓練しました。このような経験が無ければ、私は疲弊して、ブラザーズハウスに住み召会生活を続けることはできなかつたと思います。

また、神戸での召会生活において、新人を養う時、私の心から天然の愛情が出て来る問題がありました。最初、私はその愛情が、キリストを命としておらず、偽善であることに気付いていませんでした。その愛情は何か焦りと不安を伴っていました。聖書は明確に言っています、「肉から生まれるのは肉であり、その霊から生まれるのは霊である(ヨハネ3:6)」、「命を与えるのはその霊である。肉は何の役にも立たない。私があなたがたに語った言葉は霊であり、命である(6:63)」、「ところが、その土台の上に、人が金、銀、宝石、木、草、刈り株をもって建てるなら、(1コリント3:12)」。**FN**木、草、刈り株とは、信者たちの天然の背景(ユダヤ教や他の宗教、哲学、文化のような)と、天然の生活方式(それはたいてい魂の中にあつて、天然の命です)から来る知識、認識、成就を象徴します。...これら価値のない材料は、信者の天然の人の産物であり、彼らが自分たちの背景から寄せ集めてきたものです。神のエコノミーでは、これらの材料はただ焼かれるにふさわしいだけですが。私が天然の愛情、肉からのもので人に奉仕した結果、その人の中の主は成長せず、反って肉が発展するだけでした。多くの失敗と聖書の啓示を通して、天然の愛情から出た牧養は、建造の助けにならないだけでなく、破壊してしまうことが分かり始めました。それから、私は少しずつ、召会生活の中で、文化的にあるいは政治的に振る舞わず、率直に語るべき時は、主の中で正直に率直に語り、語るべきでない時は、主の中で語らず、祈って主に委ねることを学び始め、現在も学んでいます。

**CP3:IV. 聖なる祭司の体系、組み合わされた祭司団は、建造された霊の家です。神は彼の住まいのための霊の家と、彼に仕えるための祭司団、団体の祭司の体系を求めています。C**私たちの主に対する祭司の奉仕はすべて、「測りなわの神」としての彼を源としていなければならず、私たち自身からであつてはなりません。私たちの祭司の奉仕はす

べて、彼の導きと彼の制限にしたがつており、彼の死を私たちの内側で働かせなければなりません。それによって、彼の復活の命は私たちを通して、他の人の中へと分け与えられることができます。**2コリント4:12** こうして、死は私たちの中で働き、命はあなたがたの中で働くのです。**10:13**しかし、私たちは自分の度量を越えて誇ろうとはしません。むしろ測りなわの神が、私たちに割り当ててくださった尺度の度量にしたがつて、遠くあなたがたにまで到達することを誇ります。**FN**使徒は大胆でしたが、限度を超えていませんでした。これは彼が主の制限の下にあつたことを示します。主は特に若い人たちに制限することに関心があります。もし若い人たちが主に仕える心を持たないなら、主は仕えるよう彼らをかき立てられるでしょう。しかし、いったん彼らがかき立てられると、主は彼らを制限されます。人の性質はこの種の制限を好みません。...神の上げ下げを受け入れることができるなら、私たちは最終的に彼の働きの中で有用となるでしょう。...私たちの天然の人は制限のないことを欲します。しかしながら、神は私たちの問題を知っておられます。ですから、神は境界と制限を設けて、私たちに割り当てた測りなわの内側にとどまるようにされるのです。**証**召会生活を始めて間もない頃、神戸に来る前、東京の実家に住んでいた時のことですが、家を開く願いをととても強く持っていて、小組の時はもちろんのこと、主日のパンさき集会のためにも家を開きたいと思っていました。ちょうどその頃、地区に分かれてパンさき集会を持つ流れがあり、奉仕の兄弟さえいれば私の家でも地区集会を持てる可能性がありました。しかし現実にはそのエリアには奉仕の兄弟がいなかったため、実現せず、そのときはとても残念に思っていました。しかしその後私は結婚して神戸に引っ越すことになったので、私の家で地区集会が行われなかつたのは、主の適切な案配だつたのだとわかりました。一度パンさき集会を設立したら、簡単にやめるわけにはいかないからです。結婚して神戸に住み始めてから20余年経過し、昨年、夫である兄弟の発案で家をリフォームし、本山地区の中の小地区として、地区集会を開始することができました。地区の株分けは増し加わりのためなので、平均年齢が高い地区でどう増し加わることができるのか、不安を持っての開始でしたが、導いてくださる兄弟姉妹の顧みのもとで、交わりを密にとり、友人も少しずつ招くことができるようになり、兄弟姉妹と共に祈り、1月下旬に、ある聖徒の80代の友人がバプテスマされました。主に感謝します。